

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業のタイトル (科目名) 生活レクリエーション援助Ⅱ	授業の種類 (講義・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 須藤ひろみ (実務経験者) 星島宏治 (実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必 修
[授業の目的・ねらい] ・介護実践におけるレクリエーション活動の意義を知り、実践に向けた計画を立案し、実践できるようになる。そのためにコミュニケーションをとる能力や方法を習得し、目的に合わせたレクリエーションの選択・展開方法について学習する。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 1. 個人及び集団に適したコミュニケーション方法が選択できる。 2. 対象・目的に合わせたレクリエーションを計画、展開、実践できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 15			
【コミュニケーション・ワーク】 1～14 須藤ひろみ 1. コミュニケーション・ワーク① 2. コミュニケーション・ワーク② 3. コミュニケーション・ワーク③			
【目的に合わせたレクリエーション・ワーク】 4. 目的に合わせたレクリエーション・ワーク① 5. 目的に合わせたレクリエーション・ワーク② 6. 目的に合わせたレクリエーション・ワーク③			
【対象に合わせたレクリエーション・ワーク】 7. 対象に合わせたレクリエーション・ワーク① 8. 対象に合わせたレクリエーション・ワーク② 9. 対象に合わせたレクリエーション・ワーク③			
【実習Ⅰ-1 事前準備】 10. 計画書の作成① 11. 計画書の作成② 12. 事前準備 13. リハーサル① 14. リハーサル②			
【バルーンアート演習】 15. バルーンアート 15 星島宏治			
[使用テキスト・参考文献] ・「レクリエーション支援の基礎」 (日本レクリエーション協会) ・プリント資料配布		[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・演習試験 (レク計画・展開・実践・評価) を課し、到達目標の6割以上の修得が必要	

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅱ-2	授業の種類 (演習)	授業担当者 速水貴昭 (実務経験者) 若杉かおり (実務経験者)	
授業の回数 20回	時間数 (単位数) 40時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修科目
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。並びに、介護福祉士として介護者に指導することも視野に入れ、自分の言葉で指導できることを目指す。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・介護福祉士として実務につくための基本的な介護の知識・技術・態度を習得し、それらを統合し介護技術が適切に実施できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 入浴の意義と目的 2. 爽快感・安楽を支える介護の工夫 (環境づくり、スキンシップ等) 3. 安全・的確な入浴・シャワー浴の介助の実際 4. 全身清拭・陰部洗浄・足浴・手浴・洗髪の介助 5. おむつの介助－1 6. おむつの介助－2 7. おむつの介助－3 8. 利用者の状態・状況に応じた介護の留意点 9. 睡眠の意義と目的 10. 利用者の状態・状況に応じた介助の技法 11. 口腔ケア ① 11～12 若杉 かおり 12. 口腔ケア ② 13. 実習前の復習－3 14. 実習前の復習－4 15. 終末期における介護の意義、目的 16. 終末期におけるアセスメント 17. 医療との連携 看取りのための制度 18. 終末期における介護 19. 臨終時の介護・対応とグリーフケア 20. まとめ			
[使用テキスト・参考文献] ・「新・介護福祉士養成講座 7『生活支援技術Ⅱ』第3版」(中央法規出版) ・「最新介護福祉全書 6『生活支援技術Ⅱ』」(メジカルフレンド社出版) ・プリント配布		[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験と実技課題、レポート課題を課し、到達目標の6割以上の修得が必要	

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習 I-2	授業の種類 (講義・ <u>演習</u> ・実習)	授業担当者 速水 貴昭 (実務経験者) 伊東 美子 (実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 介護実習に向けての心構え、予備知識、動機付け等の準備を行い、介護実習中には実践力を身に付けることができるようにし、実習後は十分な振り返りを行うことでより効果的な介護実習を行えるようにする。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ① 学んだ知識や技術を統合して、実際場面に適応できる能力を身に付ける ② 介護場面で遭遇した課題を解決するための思考、判断、行動力を身に付ける ③ コミュニケーション技術などを活用し、様々な人との人間関係を築く能力を身に付ける			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 15コマ 1. 実習 I-3 の説明 個人票作成 2. 実習 I-3 計画書・心構え作成 3. 実習 I-3 計画書・心構え作成 4. 実習前準備 5. 実習前準備 6. レポート指導 7. レポート作成 8. レポート作成 9. レポート作成 10. レポート作成 11. パワーポイント作成 12. パワーポイント作成 13. 報告会準備 14. 報告会準備 15. まとめ			
[使用テキスト・参考文献] ・プリント配布		[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・提出課題を課し、授業態度や提出状況により到達目標の6割以上の修得が必要	

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業のタイトル (科目名) 人間関係とコミュニケーション		授業の種類 (<u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 栄 千恵子 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	必修・選択 必 修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を習得する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションの意義、コミュニケーションの様々な方法がわかる。 ・ 「対話する」、「意思の疎通を図る」、「説明責任がある」ということをふまえて、基礎的なコミュニケーション能力を身に付け、実践できる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数 15</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個々人の認知世界 2. 人生というドラマの主人公 3. ストレスを考える 4. 利用者のとらえ方 5. 人間関係のさまざまな広がり 6. 発達と人間関係 7. エコロジカルな視点からみた人間関係 8. 集団力学からみた人間関係 9. 介護職支援と対人関係 (職場での人間関係) 10. コミュニケーションとは 11. コミュニケーションの目的と方法 12. コミュニケーションを促す環境 13. コミュニケーション技法を知る 14. 各種コミュニケーション技法と実際 15. コミュニケーション技法を活かす 					
[使用テキスト・参考文献] ・ 「新・介護福祉士養成講座①人間の理解」 (中央法規出版)			[単位認定の方法及び基準] ・ 単位取得には 8 割以上の出席が必要 ・ 筆記試験を課し、到達目標の 6 割以上の修得が必要		

授 業 概 要

(介護福祉学科)

授業のタイトル (科目名) 障害の理解Ⅱ	授業の種類 講 義	授業担当者 福田康之 (実務経験者)
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・後期
必修・選択 必 修		
[授業の目的・ねらい] 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を説明できる。また、障害のある人の体験を述べることができ、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を述べるができる。		
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ 障害の概念や障害福祉の基本理念を説明できる。 ・ 障害の医学的側面の基礎的知識を説明できる。 ・ 障害のある人の生活を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を述べるができる。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 障害のある人に対する介護の基本的視点 2. 基本的視点に基づいた個別支援① 3. 基本的視点に基づいた個別支援② 4. 社会資源の利用と開発① 5. 社会資源の利用と開発② 6. 家族への支援とは何か 7. 家族の状態の把握と介護負担の軽減 8. 保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携① 9. 保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携② 10. 地域におけるサポート体制 11. 知的障害のある人の生活 12. 精神障害のある人の生活 13. 高次脳機能障害のある人の生活 14. 発達障害・重症心身障害のある人の生活 15. まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ・「介護福祉士養成講座 障害の理解」 (中央法規出版)	[単位認定の方法及び基準] ・ 単位取得には8割以上の出席が必要 ・ 筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要	

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業のタイトル (科目名) 社会と制度の理解 I	授業の種類 (<u>講義</u> ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 安藤 清彦 (実務経験者)	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「生活と福祉」では、個人の暮らしと生活のあり方を社会福祉との関連で捉え、その意義と理念を理解することをねらいとする。 2 「社会保障制度」では、歴史と変遷、しくみについて理解することで、社会保障制度が全ての国民の暮らしにとって必須であることを理解する。 3 「介護保険制度」では、創設の背景と目的を理解し、実際にどのように活用されているか理解する。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生活の中の社会福祉について自分の生活と結びつけて考えることができる。 2 社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、仕組みを知る。 3 介護の専門職として介護保険制度の概要がわかる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数 15</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本における社会の変化 (少子高齢社会) 2. 現代におけるライフスタイルの変化、育児と介護の制度 3. 地域社会の変容 4. 社会保障とは何か、社会保障の目的と機能 5. 日本の社会保障制度の変遷① 6. 日本の社会保障制度の変遷② 7. 日本の社会保険① 8. 日本の社会保険②・日本の社会扶助 9. 介護保険制度の創設と目的 10. 介護保険制度における介護支援専門員の役割 11. 介護保険制度のしくみ、基礎的理解① 12. 介護保険制度のしくみ、基礎的理解② 13. 介護保険制度における組織、団体の機能と役割 14. 地域支援事業 15. まとめ 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新・介護福祉士養成講座 「②社会と制度の理解」第6版 (中央法規出版) ・福祉小六法 2018 (中央法規出版) ・プリント配布 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要 	

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業のタイトル (科目名) 介護実習 I -1. 2. 3	授業の種類 (実 習)	授業担当者 福田康之・速水貴昭 棚橋恭子・伊東美子 全員実務経験者	
授業回数 1 日 8 時間×32 日	時間数 (単位数) 256 時間 (6 単位)	配当学年・時期 1 学年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] さまざまな生活の場における利用者個々の生活リズムや個性を理解したうえで、ケアの個別性について理解し、利用者・家族とのコミュニケーションを実践し、生活支援技術の確認を行い、他の専門職等との協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士としての役割について理解する。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ①様々な生活の場における個別ケアを理解することができる。 ②両者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解することができる。			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 実習 I - 1 (5 日間) ……1 年生後期 目 的：通所介護の特性を学び、利用者から親しまれる態度、コミュニケーション方法を学ぶ。 目 標：①施設の役割・機能が居宅で暮らす利用者に対して、どのような役割を果たしているのか理解する。 ②障害特性に応じたコミュニケーションを使用し、利用者を理解する。 ③利用者が、居宅で暮らすことの意義、地域生活をどのように継続しているのかを学ぶ。 達成方法・通所介護実習は、1 日の実習を 8 時間とし、5 日間を基本とする。 ・マンツーマン指導を基本とする。 ・利用者と職員がどのように信頼関係を築いているか観察し理解する。 ・レクリエーション活動の企画を行い、実施する。 ・利用者、家族に対する接し方や援助方法について指導を受ける。 ・利用者とその家族、関係機関などの地域社会との連携方法を理解する。 実習 I - 2 (5 日間) ……1 年生後期 目 的：利用者の福祉施設での日常生活について理解することで、一人ひとりのライフスタイルの多様性を学ぶ。 目 標：①利用者とのコミュニケーションを通じて、個別性を理解するとともに、介護職としての一般的な役割について理解する。 ②利用者への日常生活援助を提供し、利用者が求めている援助方法を理解し、どのように対応すべきか考察することで、判断力を養う。 ③利用者を敬愛し、尊重する姿勢を身につけることで、マナー、職務規定を遵守する。 達成方法・地域密着実習は、1 日の実習を 8 時間とし、5 日間を基本とする。			

- ・マンツーマン指導を基本とする。
- ・コミュニケーション技術を用いて利用者と積極的に関わる。
- ・利用者との関りを通じて、適切な対応方法について学び、実践する。
- ・実習指導者からの指導のもと、基本的な介護技術を学び、実践する。
- ・日常生活を含めた、個別性について理解する。

実習 I - 3 (15日間) ……1年生後期

目的：様々な利用者に出会い、思いや願いにふれることで利用者を理解する。また、利用者の日常生活の理解を通して、自立支援を観点とした基礎的な援助方法について学ぶ。

目標：①「その人らしさ」が発揮できる日常生活を支援し、継続できるよう個別ケアの重要性を理解する。

②利用者とのコミュニケーションを通じた人間関係の形成を行い、状況に応じた適切な生活支援技術とは何かについて理解する。

③障害レベルに応じて求められる介護方法、それを援助する福祉用具の知識や活用能力を身につけ、習得する。

達成方法・入所施設実習は、1日の実習を8時間とし、15日間を基本とする。

- ・マンツーマン指導を基本とし習熟度をはかる。
- ・実習先の勤務時間に合わせて、早番・遅番を実施する。(基本は日勤)
- ・コミュニケーション技術を用いて利用者と積極的に関わる。
- ・利用者との関りを通じて、適切な対応方法について学び、実践する。
- ・実習指導者からの指導のもと、基本的な介護技術を学び、実践する。
- ・日常生活を含めた、個別性について理解する。

<p>[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」 中央法規</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] ・必要実習時間の参加が必要 ・実習先からの評価を参考に実習態度、介護技術等で評価し、到達目標の6割以上の修得が必要</p>
---	--

授 業 概 要

(介護福祉学科)

授業のタイトル (科目名) 介護の基本 I -2	授業の種類 講 義	授業担当者 福田 康之 (実務経験者)	
授業の回数 30回	時間数 (単位数) 60時間 (4単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必 修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>専門職としての介護職に求められる倫理性について考えたことを述べることができる。適切な自立支援を行う際の自立や ICF の考え方、自立支援とリハビリテーション、介護予防の視点や留意点を考えて述べるができる。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>介護福祉士の倫理とは「介護における専門職能団体の活動」「介護福祉士の倫理」について述べるができる。自立に向けた介護福祉のあり方とは「自立の考え方」「ICF の考え方」「自立支援とリハビリテーション」「自立支援と介護予防」について述べることができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護における専門職能団体の活動① 2. 介護における専門職能団体の活動② 3. 介護における専門職能団体の活動③ 4. 介護における専門職能団体の活動④ 5. 介護福祉士の倫理① 6. 介護福祉士の倫理② 7. 介護福祉士の倫理③ 8. 介護福祉士の倫理④ 9. 自立の考え方① 10. 自立の考え方② 11. 自立の考え方③ 12. 自立の考え方④ 13. 自立の考え方⑤ 14. ICF の考え方① 15. ICF の考え方② 16. ICF の考え方③ 17. ICF の考え方④ 18. ICF の考え方⑤ 19. 自立支援とリハビリテーション① 20. 自立支援とリハビリテーション② 21. 自立支援とリハビリテーション③ 22. 自立支援とリハビリテーション④ 23. 自立支援とリハビリテーション⑤ 24. 自立支援と介護予防① 25. 自立支援と介護予防② 26. 自立支援と介護予防③ 			

- 27. 自立支援と介護予防④
- 28. 自立支援と介護予防⑤
- 29. まとめ
- 30. まとめ

[使用テキスト・参考文献]

- ・「介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅰ」
(中央法規出版)

[単位認定の方法及び基準]

- ・単位取得には8割以上の出席が必要
- ・筆記試験とレポート課題を課し、到達目標の6割以上の修得が必要

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業のタイトル (科目名) 介護過程 I-2	授業の種類 ((<u>講義</u>)・演習・実習)	授業担当者 伊東 美子 (実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開する力を養う。また、そのために必要な観察力や洞察力を身に付けることができるように授業展開を行う。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>①アセスメントが実践できる</p> <p>②自ら行った実習中のアセスメント過程をまとめ、発表することができる</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数 15コマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメントの実際 (生活支援アセスメント表の説明) 2. 事例で考える介護過程の展開① (生活支援アセスメントの作成1) 3. 事例で考える介護過程の展開② (生活支援アセスメントの作成2) 4. 事例で考える介護過程の展開③ (生活支援アセスメントの作成3) 5. 事例で考える介護過程の展開④ (生活支援アセスメントの作成4) 6. 事例で考える介護過程の展開⑤ (生活支援アセスメントの作成5) 7. 介護実習Ⅱ-1 事前確認 (実習中の介護過程の展開について) 8. 事例で考える介護過程の展開⑥ 9. 事例で考える介護過程の展開⑦ 10. 介護実習Ⅱ-1 介護過程のまとめ (報告会に向けた準備) 11. 介護実習Ⅱ-1 介護過程のまとめ (報告会に向けた準備) 12. 介護実習Ⅱ-1 介護過程のまとめ (報告会に向けた準備) 13. 介護実習Ⅱ-1 介護過程のまとめ (報告会に向けた準備) 14. 介護実習Ⅱ-1 介護過程のまとめ (報告会に向けた準備) 15. まとめ 			
[使用テキスト・参考文献] ・アクティブラーニングで学ぶ「介護過程ワークブック」(株式会社みらい) ・プリント配布		[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要	

授 業 概 要

(介護福祉学科)

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術Ⅱ	授業の種類 演 習	授業担当者 福田 康之 (実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必 修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護を必要とする者の理解や援助的關係、援助的コミュニケーションについて説明ができ、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働おけるコミュニケーション能力について述べるができる。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護現場で必要とされる人間關係の形成のためのコミュニケーション技術を説明でき、利用者にかかわる人たちと利用者の關係調整能力について述べるができる。 ・コミュニケーション障害のある利用者について説明ができ、それに対する適切なコミュニケーションを実施できる。 ・文書 (記録・報告書など) を通して、介護実践に必要とされる情報伝達技術について説明ができ、実施することができる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの過程 2. コミュニケーション障害を引き起こす主な疾患 3. 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション(視覚・聴覚) 4. 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション(盲ろう・構音障害・失語症) 5. 高次脳機能障害の特性に応じたコミュニケーション技術 6. 失語症、構音障害の特性に応じたコミュニケーション技術 7. 認知症の特性に応じたコミュニケーション技術 8. 若年性認知症の特性に応じたコミュニケーション技術 9. 視力・聴力の障害に応じたコミュニケーション技術 10. 知的障害、精神障害の特性に応じたコミュニケーション技術 11. チームのコミュニケーション 12. 記録 13. 情報の取り扱い、記録の IT 化 14. 報告・連絡・相談、会議 15. まとめ 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>・「介護福祉士養成講座 コミュニケーション技術」 (中央法規出版)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験とレポート課題を課し、到達目標の6割以上の修得が必要 	

授 業 概 要

(介護福祉学科)

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみⅡ	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 棚橋 恭子 (実務経験者)
授業の回数 30 回	時間数 (単位数) 60 時間 (4 単位)	配当学年・時期 1 年・後期
[授業の目的・ねらい] 障害や加齢によって生じた生活への支障に適切に対応するために、人間のこころとからだの働きに関する基本的なしくみを説明できる。 高齢者のこころとからだの変化が一つひとつの生活行動とむすびついており、その基盤となっていることを説明できる。		
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 1・身体の構成と生きるしくみについて学び説明できる。 2・高齢者や身体上または精神上の障害のある人がより良い日常生活を営めるように生活支援に必要な知識と技術を学び実践できる。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 30		
1 食事に関連したしくみ① からだをつくる栄養素と働き 2 食事に関連したしくみ② 食べることの生理的意味 3 食事に関連したしくみ③ 食事に関連したからだのしくみ 4 食事に関連したしくみ④ 摂取・嚥下に関わる解剖のしくみ 5 食事に関連したしくみ⑤ 消化と吸収のメカニズム 6 食事に関連したしくみ⑥ 代償的な栄養摂取方法 7 食事に関連したしくみ⑦ 食事の種類 8 食事に関連したしくみ⑧ 食べることに関する機能低下・障害の原因 9 食事に関連したしくみ⑨ 機能低下、障害が及ぼす食事への影響 10 食事に関連したしくみ⑩ 誤嚥と窒息 11 食事に関連したしくみ⑪ 脱水の原因と予防策 12 排泄に関連したしくみ① 排泄の生理的意味 13 排泄に関連したしくみ② 便の生成と排便のしくみ 14 排泄に関連したしくみ③ 尿の生成と排尿のしくみ 15 排泄に関連したしくみ④ 便秘・下痢と改善策 16 排泄に関連したしくみ⑤ ストーマ・膀胱留置カテーテル 17 排泄に関連したしくみ⑥ 排泄障害の種類と特徴 18 排泄に関連したしくみ⑦ 排泄障害に応じた対処方法 19 排泄に関連したしくみ⑧ 医療職との連携 20 排泄に関連したしくみ⑨ 演習 21 睡眠に関連したしくみ① 睡眠の基礎知識 22 睡眠に関連したしくみ② 睡眠のための環境条件と生活習慣 23 睡眠に関連したしくみ③ 睡眠障害の種類と特徴 24 睡眠に関連したしくみ④ 睡眠障害の対応		

- | | | |
|----|--------------------|------------------|
| 25 | 死にゆく人のこころとからだのしくみ① | 死の捉え方 |
| 26 | 死にゆく人のこころとからだのしくみ② | 死に対するこころの理解 |
| 27 | 死にゆく人のこころとからだのしくみ③ | 終末期から死までの身体機能の特徴 |
| 28 | 死にゆく人のこころとからだのしくみ④ | 死後のからだの変化 |
| 29 | 死にゆく人のこころとからだのしくみ⑤ | 死の受容過程 |
| 30 | 死にゆく人のこころとからだのしくみ⑥ | 医療職との連携 |

[使用テキスト・参考文献]

新・介護福祉士養成講座（中央法規出版）

・「14 こころとからだのしくみ」

第3版

・プリント配布

プリント配布

[単位認定の方法及び基準]

・単位取得には8割以上の出席が必要

・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要

授 業 概 要

(介護福祉科)

授業のタイトル (科目名) 認知症の理解Ⅱ	授業の種類 (講義)	授業担当者 速水 貴昭 (実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修科目
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 認知症の人の特徴的な心理と行動を述べることができる。 2 認知症の人を支える家族の支援を説明できる。 3 地域のサポート体制を説明できる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症とは、前期のまとめ 2. 認知症の人に対する介護① (事例検討) 3. 認知症の人に対する介護② (事例検討) 4. 認知症の人に対する介護③ (事例検討) 5. 認知症の人に対する介護④ (事例検討) 6. 認知症の人に対する介護⑤ (事例検討) 7. 認知症の人に対する介護⑥ (事例検討) 8. 認知症の人に対する介護⑦ (事例検討) 9. 認知症の人に対する介護⑧ (事例検討) 10. 地域の力を活かす① 11. 地域の力を活かす② 12. 家族の力を活かす① 13. 家族の力を活かす② 14. 認知症に関する制度・関係機関 15. まとめ 			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新・介護福祉士養成講座 12「認知症の理解」第3版 (中央法規出版) ・プリント配布 ・ビデオ、DVD教材など 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験と提出課題を課し、到達目標の6割以上の修得が必要 	

授 業 概 要

(介護福祉学科)

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術 I-2	授業の種類 講 義	授業担当者 福田 康之 (実務経験者)	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必 修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できるように説明ができ、実施ができる。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士として実務につくための基本的な介護の知識・技術・態度を習得し、それらを統合して適切に実施できる。 			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護職と医療行為 2. 生活支援における介護予防① 3. 生活支援における介護予防② 4. 生活支援とリハビリテーション① 5. 生活支援とリハビリテーション② 6. 生活支援と福祉用具の活用のため福祉機器を用いた生活の拡大① 7. 生活支援と福祉用具の活用のため福祉機器を用いた生活の拡大② 8. 生活支援と福祉用具の活用① 9. 生活支援と福祉用具の活用② 10. 生活支援における居住環境の意義と目的① 11. 生活支援における居住環境の意義と目的② 12. 安心して快適な生活の場づくり① 13. 安心して快適な生活の場づくり② 14. 他職種の役割と協働 15. まとめ 			
[使用テキスト・参考文献] ・「介護福祉士養成講座 生活支援技術 I」 (中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要	

授 業 概 要

(介護福祉学科)

授業のタイトル (科目名) 医療的ケア I		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 棚橋恭子 (実務経験者)	
授業の回数 10回	時間数 (単位数) 20時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>「個人の尊厳と自立」「医の倫理」について医療的ケアを行う立場のたつ専門職としての心構えを形成する。人の生命に直接関係する行為であることの意義と自覚について説明できる。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「喀痰吸引」「経管栄養」を安全に実施するための基礎知識を習得し説明できる。 2 個人の尊厳と自立について理解し、利用者の尊厳を守り、自立を助ける医療的ケアの実践ができる。 3 利用者の自己決定の権利・個人情報の保護、利用者や家族に対する説明と同意の意味を説明できる。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数 10</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療的ケア実施の基礎 2 医療の倫理・個人の尊厳と自立 3 保健医療・医行為に関する制度 4 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 5 救急蘇生 6 清潔の保持と感染予防① 7 清潔の保持と感染予防② 8 健康状態の把握 9 呼吸器系の解剖と働き 10 いつもと違う呼吸 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新介護福祉全書 13 「医療的ケア」(メヂカルフレンド社)</p>			<p>プリント配布</p> <p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位取得には8割以上の出席が必要 ・筆記試験を課し、到達目標の6割以上の修得が必要 		